

令和3年度

上下水道部の方針書

| | |
|-----|-------|
| 部名 | 上下水道部 |
| 部長名 | 木村 忠 |

1. 部の使命(ありたい姿)

安全な水道水を安定供給するとともに、生活排水を適正に処理することにより公共用水域の水質保全に努め、健全な水循環を構築する。

| | |
|------|--------------------------------------|
| 担当政策 | 政策5:暮らしを支える都市基盤を強化し、便利で快適なまちづくりを進めます |
| 担当施策 | 5-5:安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理 |

2. 部の抱える課題(現状)

- ・サービスを安定し持続するための施設設備の合理化、更新及び財源の確保
- ・人口減少及び新型コロナ禍等による営業収益の低下に対応する収支改善
- ・気候変動に対応する市街地の雨水排水対策

3. 今年度の『スローガン』

職員一丸となって経営改善を進めながら、安全で快適な水環境を構築します。

4. 今年度の方針

- ・経営状況の把握に努め、経費節減に取り組み、上下水道事業の経営安定化を図ります。
- ・将来の収支見込みや施設設備の現状等を調査分析し、事業継続のため各種計画の策定を進めます。
- ・すべての職員が公営企業としての経営を意識し、技術を磨きながら互いに協力して業務を進めます。
- ・サービスの安定供給により生活や事業活動を支え、市民の定住化に貢献します。

5. 今年度の重点取組項目

| | | |
|-----|---------|--|
| (1) | 実現したい成果 | 経営の効率化と財務基盤の強化 |
| | 取組内容 | ・隔月検針の定着・実施についての丁寧な周知 ・経営状況の定期的な確認及び部内における情報共有の継続実施 ・収支の実績及び直近の事業計画を反映させる経営戦略見直しの準備 ・水道料金改定に向けた各種データの収集 |
| (2) | 実現したい成果 | 水道施設の効率化・安定化に向けた再編の推進 |
| | 取組内容 | ・新・雄物川浄水場整備事業の補助事業採択 ・山内三又地区の山内南地区への編入計画の事業化 ・山内黒沢地区への西和賀町からの送水についての検討と協議 ・アセットマネジメントの着手 ・事業認可・水道ビジョン・事業計画の検証・精査による中長期的な視点での水道事業計画の見直し |
| (3) | 実現したい成果 | 生活排水処理施設の効率化・安定化に向けた再編と雨水対策の推進 |
| | 取組内容 | ・農業集落排水大森処理区の統合整備 ・単独公共下水道山内相野々処理区の流域下水道横手処理区への接続 ・ストックマネジメント計画実施に向けた準備 ・横手駅前地区浸水箇所改修、十文字地区都市下水路未整備箇所の整備 ・雨水幹線暗渠危険箇所の劣化度調査及び修繕計画の策定 |

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1)経営の効率化と財務基盤の強化

- ・隔月検針の定着・実施についての丁寧な周知 → 水道だより春号の早期発刊、かまくらFM、市ホームページ、検針票による周知
- ・経営状況の定期的な確認及び部内における情報共有の継続実施 → 部内会議(係長以上参加)での月次収支、有収水量の確認/意見交換
- ・収支の実績及び直近の事業計画を反映させる経営戦略見直しの準備 → 過年度決算を反映する作業実施
- ・水道料金改定に向けた各種データの収集 → データ収集開始

(2)水道施設の効率化・安定化に向けた再編の推進

- ・新・雄物川浄水場整備事業の補助事業採択 → 県担当課との下協議実施
- ・山内三又地区の山内南地区への編入計画の事業化 → 山内南地区の水源地の現地確認を実施
- ・山内黒沢地区への西和賀町からの送水についての検討と協議 → 政策会議、行政課題説明会で説明。西和賀町と協議開始
- ・アセットマネジメントの着手 → 横手地域以外の施設台帳について整備完了
- ・事業認可・水道ビジョン・事業計画の検証・精査による中長期的な視点での水道事業計画の見直し
→ 新・雄物川浄水場整備による事業認可変更について協議中。成瀬ダム事業計画変更による再評価について実施中。未着手事業(成瀬第一浄水場等)の見直しに向けた調査を実施中

(3)生活排水処理施設の効率化・安定化に向けた再編と雨水対策の推進

- ・農業集落排水大森処理区の統合整備 → 新大森浄化センター 水槽工事施工中
- ・単独公共下水道山内相野々処理区の流域下水道横手処理区への接続 → 接続管路施工中
- ・ストックマネジメント計画実施に向けた準備 → 国庫支援制度について勉強会実施。実施スケジュール等確認
- ・横手駅前地区浸水箇所改修、十文字地区都市下水道未整備箇所の整備
→ 横手駅前地区は当初計画の見直しが必要となり調査設計中。十文字地区は工事発注準備中
- ・雨水幹線暗渠危険箇所の劣化度調査及び修繕計画の策定 → 調査実施中

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)経営の効率化と財務基盤の強化

- ・隔月検針定着のための周知をはじめ、経営改善に向けた各取組を継続する。
- ・公営企業会計は来年度予算編成を経費区分別に配分する方式で行い、収益的収支及び資本的収支を調整する。
- ・上下水道未加入者への勧誘活動を進める。

(2)水道施設の効率化・安定化に向けた再編の推進

- ・新・雄物川浄水場整備については、R4交付金採択を目指し、11月の要望ヒヤリングの準備作業を進める。
- ・山内三又・南地区の編入計画については、事業の実施時期及び南地区に関する事業認可等の検討を行う。
- ・黒沢地区への西和賀町からの送水については、広域化事業導入を目指し、年度内の基本協定締結に向けて関係機関と協議を進める。
- ・アセットマネジメントの着手については、大沢及び大沢第二浄水場の施設台帳作成の事前調査を行い、また管路資産の更新期設定に向け、現行の管理システムに設定されている漏水事故等の評価項目の有効性を検証する。
- ・水道事業計画の見直しについては、コスト比較等に必要となる来年度予算の調整を進め、調査と認可協議を踏まえて方向性を打ち出す。

(3)生活排水処理施設の効率化・安定化に向けた再編と雨水対策の推進

- ・新大森浄化センター 水槽工事については工期末日を10/28から来年2月下旬まで延伸するが、できる限り早期完工を目指す。
- ・相野々処理区管路接続工事については工期内に完了するよう工事監理を進める。
- ・横手駅前地区浸水箇所については再調査結果を踏まえ施工内容を決定し、来春の発注に備える。
- ・雨水幹線の劣化度調査により緊急性が高い箇所が発覚した場合は、関係者と早急に対策協議を行う。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1)経営の効率化と財務基盤の強化 (「・」は結果成果 「⇒」は課題。以下同。)

- ・隔月検針の周知については、今年度最後の検針時期に問い合わせはなく、目標を達成したと考える。
- ・水道未加入世帯が多い地域への戸別訪問調査を行い、加入しない理由を把握することができた。
- ・浄化槽特別会計の公営企業法適用の予定を一年早め、令和5年度からとすることについて庁内で調整し、議会に報告した。
- ・公用携帯電話の加入プランを見直し、通信料金の削減を図った。
⇒経営戦略を反映させる経費区分型方式の予算編成を改善しながら継続する。
- ⇒水道事業計画の見直し、将来の水需要の分析及び財源の検討等により経営戦略の改定作業を進める。
- ⇒水道料金見直しについては、資本投資等が反映される料金の仕組みや今後の事業の在り方等を丁寧に説明し、理解していただく。

(2)水道施設の効率化・安定化に向けた再編の推進

- ・新・雄物川浄水場整備については、建設に係る諸準備を終え、令和4年度の国庫交付金事業の対象に内定した。
- ・山内三又・南地区の編入計画については、水源地現地調査を踏まえ、年度明け早々に国と浄水方法変更の協議を開始する予定である。
- ・黒沢地区への西和賀町からの送水については、広域化事業を導入するための調整が概ね完了し、3月定例会に水道施設の共同利用に関する協議について議案を上程した。
- ・アセットマネジメントについては、施設点検リストと点検方針を年度内に策定したが、管路に関しては現行システムに不具合が発生し、評価項目の有効性を検証できなかった。
- ・水道事業計画の見直しについては、来年度実施に向けて必要となる予算を計上した。また、調査及び国等との認可協議により、一部施設について整備の方向性案を部内で調整した。
⇒事業実施が確定している各施設の実施設計において、将来を見据えた適正な内容及び設計額となるよう発注/調整し、事業費やスケジュールが明確になった時点で庁内及び議会等へ適宜説明すること。
⇒管路管理システムの早期修繕を行い、施設設備をはじめとする点検作業を速やかに進めること。
⇒水道事業計画の見直しにおいては、将来の事業経営を見据え、積極的に合理化策を導入すること。

(3)生活排水処理施設の効率化・安定化に向けた再編と雨水対策の推進

- ・新大森浄化センターは水槽工事が年度内に完工し、3月に建築工事を発注した。(繰越工事)
- ・相野々処理区管路接続工事については、工事途中の通行を確保するため施工ルートの一部見直し、その実施設計を完了した。
- ・横手駅前地区浸水箇所については施工計画を変更し、来年度発注に向けて実施設計を完了した。
- ・雨水幹線の劣化度調査結果で緊急性が高い箇所はなく、ストックマネジメント支援制度活用について検討を開始した。
⇒工事等の発注後に手戻りや大幅な変更を生じないよう事前調査や現地確認を徹底し、また関係者等との調整を早期に実施すること。
⇒農業集落排水機能強化事業の展開により、施設設備の改良を着実に進めること。
⇒雨水対策については、他の水路管理者との調整を図り、財源獲得を含め有効な対策/計画を策定すること。